

## I. 概況

平成27年度における経済状況は、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略を柱とする経済財政政策の推進により、雇用・所得環境が改善し、原油価格の低下等により交易条件が改善する中で、緩やかな回復基調が続いていたが、中国をはじめとする新興国経済の景気減速の影響もあり、輸出が弱含み、個人消費及び民間設備投資の回復に遅れが見られた。

また、平成27年度の訪日外国人旅行者が約2,136万人と初めて2,000万人を超えた1年であった。

近畿圏における状況では、関西国際空港の旅客数は前年比20%増え、2,321万人となり、そのうち、外国人旅客数は前年比59%増え、1,001万人と過去最高となった。また、LCC国際線専用第3ターミナルビルが着工されるとともに、第4ターミナル整備など新規計画も一部発表され、増大する航空需要を確実に取り込む機能拡大策が展開されているところである。

大阪駅周辺地区では、大型複合施設「グランフロント大阪」は、開業3年目の来場者数が5,187万人と1年目、2年目に引き続き目標(3,650万人)を大きく上回り、また、再開発地区「うめきた2期区域」については、「みどり」と「イノベーション」の融合拠点を目標に「うめきた2期まちづくり基本方針」が策定され、28年度以降民間提案により事業が進められようとしているところである。

一方、阿倍野・天王寺地区では、一昨年3月に開業した日本一の超高層ビル「あべのハルカス」が開業から1年目来館者が4,273万人、2年目来館者が3,924万人で、外国人観光客の増加が追い風となり、想定3,800万人を上回った。

このように両地区による都市機能の充実、交通ターミナルとしての魅力向上、さらに経済活性化等により大阪府内はもとより、周辺地域に大きな経済波及効果をもたらしているところである。

このような状況の中で、当センターは近畿圏における交通運輸、観光事業の発展と経済社会の発展に資するよう、関係機関のご指導の下に日本財団をはじめ賛助会員並びに業界団体等の皆様からのご支援をいただき、事業を積極的に推進してきたところである。

平成27年度の調査・研究事業としては、関係業界団体等からの受託事業を実施したほか、定例刊行物の発行、当センター独自で企画した「サロンセミナー」、「かんこうけんコロキウム」に加え、毎年1月に開催している災害対策シンポジウムをはじめ各種講演会の開催、次世代を担う若者の叡智を通じて新たな切り口を発掘する懸賞論文募集事業の実施等に鋭意取り組み、運輸交通・観光事業の一層の発展と社会経済の活性化に向けた取組みを推進した。

## II. 事業活動

### 1. 交通経済に関する調査研究

#### A. 日本財団助成事業・・・1件

- (1) 平成28年度調査研究事業として、調査事業を実施すべく日本財団に平成27年10月に「訪日外国人観光客の安全安心インバウンドメニューの創生 ～輸送モードの多様化と観光資源へのバリアフリー化による課題解決～」を申請したが、承認には至らなかった。
- (2) 平成27年度「あなたのまちの海の日サポートプログラム」として、『「海学び舎」あらかると啓発事業』を申請したところ、6月15日付で承認され、下記概要のとおり実施した。

#### 《概要》

「海学び舎」あらかると啓発事業

#### 【受託先】

(公財) 日本財団

#### 【事業目的】

##### ①大阪港事業：「海・船お話し会と体験乗船見学会」の開催

海洋国日本の国づくりやまちおこしを担う次世代の小学生、中学生を対象に海の大切さと魅力を知ってもらうことにより、海の恩恵に感謝し、併せて広く海洋について理解、関心を深めてもらうことを目的に開催。

##### ②神戸港事業：「海の大切さや魅力を発信するリーダー養成セミナーとクルーズ」の開催

海洋国日本の国づくりやまちおこしを担う次世代の大学生に広く海洋について、理解、関心を深めてもらい、今回の参加者が海についてさらに若い世代を導く先導役として活躍することを目的にセミナーとクルーズを実施。

#### 【事業内容】

##### ①大阪港事業

- (1)開催日時：平成27年7月11日(土) 9:40～17:00  
(2)実施場所：大阪港天保山岸壁及び大阪港内  
(3)参加者：97名(小学生38名、中学生5名、高校生7名、保護者47名)  
(4)実施内容

- ・「サンタマリア号」による大阪港周遊

船内・ブリッジ探検、ロープワークの実技体験や周遊を通じ、船の役割や重要性等について学び、また、潮風を感じながら、大阪港を行き交う様々な船や、海から見るいつものとは違う目線から大阪港や沿岸の街並みの様子を観察した。



サンタマリア集合写真



ロープワーク体験

・大成丸の船内見学（航海訓練所練習船）

未来の船長や機関長を目指す実習生の訓練や実習内容を船長や乗組員から学ぶとともに、ブリッジ、機関室、航海シミュレーター室、居住区などを見学した。



大成丸集合写真

・海の生物観察

「海遊館」に入館し、「探検ノート」を片手に海の生物を観察した。特に、海の生物との触れ合いでは、「サメ」や「エイ」に直に触れるなど、その感触を確かめた。



海遊館集合写真

・絵手紙（はがきサイズ）の作成

参加者から、強く印象に残った話や光景などを「絵手紙」に描き、当センター宛てに郵送していただいた。

- ・絵手紙総数 44 枚
- ・内訳     サンタマリア     8 枚
- 大成丸             7 枚
- 海遊館             29 枚



②神戸港事業：「海の大切さや魅力を発信するリーダー養成セミナーとクルーズ」の開催

(1)開催日時：平成27年7月25日（土） 12：30～17：00

(2)実施場所：神戸中突堤及び神戸港周遊

(3)参加者：74名（大学生68名、講師・教員6名）

(4)実施内容

・セミナーの開催（会場：神戸海洋博物館ホール）

次世代を担う大学生を対象に海洋文化の発展や海にかかわる歴史を学ぶとともに神戸と繋がり  
の深い瀬戸内の島々の話やクルーズを通じた観光の楽しみ方などについてセミナーを開催した。

テーマ：四面を海に囲まれた我が国の海洋文化の発展

講師：森田 潔氏（(一社)神戸港振興協会 経営管理部 参事）

テーマ：瀬戸の島々と神戸

講師：加藤 琢二氏（ジャンボフェリー(株) 代表取締役会長）

テーマ：クルーズを通じた観光の楽しみについて

講師：青谷 実知代氏（神戸松蔭女子学院大学 人間科学部生活学科 准教授）

・神戸港クルーズの実施

造船所やガントリークレーンが林立し、接岸する巨大なコンテナ船にコンテナを積み込む作業などを身近に観察した。

- ・使用船舶 高速船「かぜ」(99G/T、定員166名、速度29ノット)
- ・神戸港の視察ルート
  - ①川崎重工(株)神戸工場、三菱重工(株)神戸造船所(海上自衛隊の潜水艦等)
  - ②神戸空港沖
  - ③ポートアイランド(ガントリークレーンによる貨物の積み下ろし等)
  - ④六甲アイランド(大型カーフェリー等)



神戸港クルーズ集合写真  
(OMこうべ「かぜ」)

## B. 受託調査研究事業等・・・11件

### 《概要》

#### (1) 手話教室の開催

##### 【受託先】

(公財) 交通エコロジー・モビリティ財団

##### 【事業目的】

聴覚に障害のある方の理解と交通事業者の接遇の向上を図るため、平成16年から開催している手話教室を本年度も開催(平成27年5月20日～11月18日、延25回)し、聴覚に障害のある方の公共交通機関における移動の円滑化の推進を図った。

##### 【事業内容】

平成27年度は鉄道、バス等の13事業者から27名が受講し、26名が修了した。

#### (2) 交通事業者向けバリアフリー教育訓練(BEST)実施に向けての研究(関西地区研修実施業務)

##### 【受託先】

(公財) 交通エコロジー・モビリティ財団

##### 【事業目的】

高齢者・障害者の安全で円滑な公共交通機関の利用を実現することと、障害者等移動制約者への理解を深める目的で、障害当事者等が講師として交通事業者を対象に接遇・介助の知識と技術を伝えるための教育訓練を実施した。

##### (訓練内容、目的)

1. 障害のある方や高齢のお客様に対する接遇・介助の基本知識やコミュニケーションの基本を習得
2. より深く障害を理解する
3. 障害のある方との意見交換を通し、それぞれの立場の相互理解や知識の共有化を図る
4. 具体的な接遇や介助技術を身につける
5. 様々なお客様のニーズを感じ取る「気づきの心」を磨く



車いす乗降体験



視覚障害者乗降体験

【事業内容】

平成27年度は3回研修会を開催した。延べ20事業者（鉄道、バス）から66名が受講し、全員修了した。

平成27年6月30日・7月1日	実施場所	兵庫県立福祉のまちづくり研究所
	参加者	26名（鉄道4名、バス22名）
平成27年11月12日・13日	実施場所	神戸国際会館セミナーハウス
	参加者	26名（鉄道26名：神戸市交通局研修）
平成28年2月4日・5日	実施場所	難波市民学習センター
	参加者	14名（鉄道6名、バス8名）

(3) バリアフリー推進ワークショップの開催

【受託先】

(公財) 交通エコロジー・モビリティ財団

【事業目的】

移動円滑化に対するテーマや課題について、学識者、障害当事者、交通事業者、行政、各メーカー等関心のある方々との情報共有をし、改善の方向性を共に考えることを目的に、平成27年度は2回ワークショップを開催した。

【事業内容】

第1回

開催日：平成27年9月3日（木）

テーマ：寺社仏閣と城郭における観光バリアフリーの現状と課題

- ・清水寺での取り組みと課題 清水寺
- ・国宝姫路城の保存修理観覧時を含むバリアフリー化 姫路城

会場：中央電気倶楽部

参加者：49名

第2回

開催日：平成28年1月27日（水）

テーマ：鉄道駅における可動式ホーム柵の設置の現状と課題

- ・可動式ホーム柵及びホームの段差・隙間対策について 大阪市交通局
- ・ホーム安全対策 ～可動式ホーム柵と昇降式ホーム柵について～ 西日本旅客鉄道株

会場：大阪歴史博物館 4階第一研修室

参加者：63名



#### (4) TSD運輸安全マネジメント支援センター事業の推進

##### 【受託先】

(一財) 近畿陸運協会

##### 【事業目的】

- ・運輸の安全確保を最重要課題として発足した「運輸安全マネジメント制度」は9年を経過し、大手・中堅事業者については取り組みが定着し一定の成果を挙げているが、更にその成果を拡大していくためには、特に中小規模事業者への普及・啓発をより推進していく必要がある。
- ・輸送の安全確保は運輸安全マネジメントシステムと法令遵守の両輪で進めていくことが重要であり、中小規模事業者に対する運輸安全マネジメントの定着、安全意識の醸成・徹底等の課題への取組が必要である。
- ・平成24年5月に官民連携機関である「運輸安全マネジメント普及・啓発推進協議会」が設立され、TSDも平成25年12月に同協議会のメンバーに参画し、平成26年8月に国土交通省運輸安全マネジメント認定セミナーガイドライン、平成27年7月に内部監査(基礎)を取得しセミナーの開催に努めてきた。今後更に認定セミナーを充実させるため、リスク管理(基礎)の認定取得を目指すこととする。
- ・TSDでは中小規模事業者を対象として出前講座、セミナーを展開する中で、事業者個々の安全意識を高め、さらには事業規模に見合った運輸安全マネジメント構築のためのコンサルティング等を行うなど、きめ細かい支援を行った。

##### 【事業内容】

- ・事故防止等安全対策マニュアルの普及  
出前講座・セミナー等で活用するとともに、近畿管内のバス・タクシー・トラックの各団体に対し普及に努めた。
- ・運輸安全マネジメント出前講座及びセミナー(講師派遣)の開催  
開催回数：6回 《延べ参加者 301名》
- ・運輸安全マネジメントシンポジウム(トラックモード)の開催  
参加事業者：136名
- ・運輸安全マネジメント認定セミナーの開催  
開催回数：11回 《延べ参加者 731名》  
ガイドライン：旅客事業 1回 43名  
：貨物事業 8回 549名  
内部監査：全事業 2回 139名
- ・コンサルティング業務  
平成26年11月よりタクシー事業者(福祉限定)とコンサルティング契約を締結し、毎月1回当該事業者を訪問し助言、指導を行った。  
27年度コンサル回数：10回



運輸安全マネジメントシンポジウム

## (5) 環境保全優良事業者等表彰式 記念講演会事業

### 【受託先】

(一財) 近畿陸運協会

### 【事業目的】

地域の実情に応じた環境対策の専門的見地からの講演や環境対策の先進的交通関係事業者（トップランナー）の事例報告等を通して、地方自治体、運輸関係者や自動車関連事業等に携わる各層の方々に、より高い関心を与えることを目的に講演会を開催した。

### 【事業内容】

開催日：平成27年8月27日(木)

会場：大阪歴史博物館 4階講堂

テーマ：環境・地域づくりとコミュニケーションの可能性

講師：神田 佑亮 氏 (京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻准教授)

事例報告：近鉄グループの環境取組みについて

近鉄グループホールディングス(株)

大規模物流事業者による総合的な環境保全への取り組み

佐川急便(株)

姫路駅周辺整備事業について 姫路市

参加者：182名



## (6) 第9回自動車事故防止セミナー

### 【受託先】

(一財) 近畿陸運協会

### 【事業目的】

自動車運送事業においては、中小規模事業者が圧倒的多数を占め、自らの能力だけで安全対策の充実を図るには様々な障害や課題を克服しきれないのが現状である。

本セミナーでは「事故特徴に対する有効な事故防止策」と題して、「事業用自動車事故調査委員会」において、調査分析され再発防止策が提言された事例、運行管理の高度化機器、過労防止対策機器などを導入された運送事業者による事故防止対策事例、近畿運輸局で実施した事故調査の結果と再発防止策などを紹介し、参加者への理解を深めて頂くことを目的に開催した。

### 【事業内容】

開催日：平成28年1月19日(火)

会場：ドーンセンターホール (大阪府立男女共同参画・青少年センター)

テーマ：事業用自動車の事故防止対策等について

講師：酒井 雅彦 氏 (近畿運輸局 自動車技術安全部長)

テーマ：自動車事故調の提言

講師：安部 誠治 氏 (関西大学社会安全学部 教授)

テーマ：近畿運輸局の事故調査結果について

講師：浦部 勝弘 氏 (近畿運輸局 自動車技術安全部保安・環境課 自動車事故調査分析官)

参加者：354名



## (7) 路線バスの可能性を考えるシンポジウム

### 【受託先】

(一財) 近畿陸運協会  
近畿バス団体協議会

### 【事業目的】

路線バスは、就労人口減少、少子高齢化により厳しい経営環境に直面しており、高齢者をはじめとした地域住民の日常的な移動手段としての役割は大きく、また、その地域を訪れる観光客の周遊手段としても期待は高まっている。

このような状況の中で、いかにして地域の足である路線バスを残していくのか、また、観光客等の交流人口の拡大に対してどのように対応していくのか、このような問題意識のもと、交流人口拡大による地域活性化と地域住民の生活維持との融合という視点で路線バスの可能性を考えることを目的に開催した。

### 【事業内容】

#### ・京都シンポジウム

開催日：平成27年12月3日(水)  
会場：龍谷大学響都ホール 校友会館  
テーマ：『路線バスの旅』がほぼ流行らない根本原因  
～ではどうするこれからのバス～  
講師：鈴木 文彦氏 (交通ジャーナリスト)

事例報告：バス利便性向上の取組みについて  
澤瀧 晴彦氏 (しずてつジャストライン(株) 営業部 地域交通課長)

参加者：215名



#### ・兵庫シンポジウム

開催日：平成28年2月15日(月)  
会場：兵庫県民会館 けんみんホール  
テーマ：よその街のバスは難しくない ～公共交通で訪問できる地域になるための情報整備～  
講師：井上 学氏 (平安女学院大学 国際観光学部 准教授)

事例報告：世界遺産地域の「生活」と「観光」交通の融合 ～世界遺産バス～  
稲田 祐治氏 (加越能バス(株) 取締役社長)

参加者：230名



## (8) 近畿スマートエコ・ロジ協議会業務

### 【受託先】

(一社) 近畿トラック協会

### 【事業目的】

地球温暖化防止、窒素酸化物排出削減等運輸事業をめぐる環境問題に対応するため、併せて近畿一円の「人と環境にやさしい街づくり」を目指すため、国、地方自治体、関係団体、産業界及び学識経験者等が連携して、次世代自動車の普及・啓発、広報、トラック事業における共同輸配送の促進等を目的とする事業活動の円滑な推進を図っているところである。

### 【事業内容】

・CNG貨物車の普及促進を図るため、地域部会として関空プロジェクト及び京都プロジェクトを26年度に引き続き実施した。

・環境対応車普及促進のためのフォーラム等

#### ① 立命館国際フォーラム

開催日：平成27年9月4日(金)

場 所：立命館いばらきフューチャープラザ グランドホール

参加者：550名

#### ② 和歌山トラックの日 交通安全フェスティバルへの出展

開催日：平成27年10月12日(月)

場 所：和歌山地域地場産業振興センター

参加者：約1,300名

#### ③ 平成27年度環境と物流を考えるフォーラム

開催日：平成27年11月19日(木)

場 所：兵庫県トラック総合会館

参加者：101名

#### ④ 物流フォーラム in KYOTO ～健康と安心・安全な街づくり～

スポーツキャスター大林素子さんをむかえて

開催日：平成28年3月4日(金)

場 所：ホテル ルビノ京都堀川

参加者：160名

・広報活動として、近畿スマートエコ・ロジ協議会のホームページ掲載及びリーフレットの作成を行い、低公害車の普及促進に努めた。



物流フォーラム in KYOTO



大林素子さん講演

## (9) 事業者参加型エコプロジェクト推進事業

### 【受託先】

(一社) 兵庫県トラック協会

### 【事業目的】

・兵庫県トラック協会では、環境物流に関する調査研究を継続的に実施しており、その研究事業内容を活用しながら毎年、環境フォーラムを開催し、会員事業者や一般県民に対して、業界の環境負荷低減に向けた取り組みを広く広報してきた。

・これまでの検討のなかで、トラック事業者がさらに環境対策を進めていくには、その事業内容を見える化することで環境負荷の低減効果を事業者自身が実感することに加え、荷主を含め世間に広く理解していただく必要があることが重要であることが明らかになっている。

・そのような中、平成24年度、兵庫県トラック協会は「事業者参加型エコプロジェクト」を立ち上げ、トラック事業者が取り組む環境対策の事業内容を定量的なデータで把握（見える化）した。

・平成25年度は、プロジェクト推進の2年目の取り組みとして、複数のトラック事業者の協力のもと各社が取り組む環境対策がもたらす環境負荷低減効果について実際の燃費データ等を検証した。

・平成26年度は、プロジェクト推進の3年目の取り組みとして、参加者の拡大と簡易計測シートの開発、事務局へのデータの提供方法の検討などを行った。

一方、会員事業者へのプロジェクト参画の動機づけや、業界全体へのプロジェクトの拡大、データベースの作成・運用といった点については多くの課題が残った。

・平成27年度は、会員事業者への啓発、参画の動機づけといった点に重点をおき、全会員事業者に対し、実施している燃費改善取り組み内容、保有している車両の燃費の計測結果（各社計3両）アンケート調査を行い、環境対策の実施状況と車両別の燃費に関するデータベースを作成し、協会ホームページ等でその公開をとおしてプロジェクトの拡大を図っているところである。

また、会員事業者の燃費改善の効果的な事例や燃費改善がもたらす効果などをリーフレットとして、プロジェクトの拡大をめざし全会員事業者に配付したところである。

### 【事業内容】

・平成27年11月19日（木）兵庫県トラック会館において、全会員事業者に対するアンケート調査の中間報告を行い、兵庫県トラック業界及び事業者の環境改善への取り組みの有効性を広く知っていただくことを目標に「環境と物流を考えるフォーラム」を開催した。

参加者は物流事業者を中心に101名であった。

・フォーラムの内容は「事業者参加型エコプロジェクトに関する調査報告書」として取りまとめ関係者等に配付した。



(10) 事業者参加型エコプロジェクト推進事業にかかる広報誌の作成

【受託先】

(一社) 兵庫県トラック協会

【事業目的】

事業者参加型エコプロジェクトの取り組みで、会員事業者の燃費改善の効果的な事例や、燃費改善がもたらす効果などのPR誌を作成した。

【事業内容】

「トラック事業者のための燃費の処方箋」の作成

部数：2,500部

内容：エコプロジェクトの概要、燃費改善の方策、先進事例紹介等

配付：兵庫県トラック協会全会員に配付

(11) 自動車関連ビッグデータ利活用にかかるプラットフォームとしての検査標章のRFID化に関する検証委員会

【受託先】

(株) キリック

【事業目的】

国土交通省にあつては、平成26年2月に有識者からなる「自動車関連情報の利活用による将来ビジョン検討会」を設置し、平成26年12月に「自動車関連情報の利活用による将来ビジョン」のまとめ案を策定し27年1月に公表した。

この状況を踏まえ、国民に対する行政サービスの向上に留まらず、新たなサービスの創出による、より大きな経済効果を得るためには、検査標章のRFID化 (radio frequency identifier) を実現し、プラットフォーム化することがきわめて有効かつ有益な効果をもたらすと考えられることから、「自動車関連ビッグデータ利活用にかかるプラットフォームとしての検査標章のRFID化に関する検証委員会」を立上げ、検査標章のRFID化に関するシステムの検証を行い、国土交通省に提案を行った。

【事業内容】

・委員会の開催

第1回委員会 平成27年3月19日(木)

第2回委員会 平成27年5月13日(水)

第3回委員会 平成27年7月1日(水)

・国土交通省近畿運輸局長への提案

1. 提案日時 平成27年11月2日(月) 10:00

於：近畿運輸局長室

2. 提案先 国土交通省 天谷近畿運輸局長

3. 提案者 検証委員会 斎藤峻彦委員長



左 天谷近畿運輸局長  
右中 斎藤委員長(近畿大学 名誉教授)

・提案内容

検査標章のRFID化を実現し、自動車関連ビッグデータを利活用することにより、行政サービスの向上はもとより、新たなサービスの創出を通して環境改善、犯罪防止、民間企業によるユーザーサービス等社会経済に関する多様な効果を期待できることが明らかになった。

よって自動車関連ビッグデータの利活用普及促進には、RFID化した検査標章をプラットフォームとすることが最適である。

## 2. 交通経済に関する講演会等の開催

### ○ サロンセミナー

日 時：平成27年10月6日(火) 14:00～16:00

場 所：ホテルグランヴィア大阪 20F 鳳凰の間

テーマ：地域公共交通再生の実現に向けて

講 師：小嶋 光信 氏 (両備ホールディングス(株) 代表取締役会長)

聴講者：127名

- ・(公財) 関西交通経済研究センターの主催、国土交通省近畿運輸局 神戸運輸監理部、大阪航空局、近畿地方整備局、第五管区海上保安本部の後援により開催

#### ・開催主旨

我が国は、人口減少、少子高齢化が急速に進展する中、特に地方部においては、地域鉄道や地域バス等の公共交通機関の輸送人員の減少により、公共交通ネットワークの縮小やサービスの一層の低下が懸念される状況にある。

国土交通省の資料によれば、民間バスの約7割、地域鉄道事業者の約8割が経常収支が赤字となっている。また、乗合バスについては、平成19年度以降、約10,206kmの路線が完全に廃止、地域鉄道については、平成19年度以降、約186kmの路線が廃止されている。

しかしながら、地域の公共交通事業は、沿線住民のくらしや観光地域間の交流を支える公共交通として、また、自ら交通手段を持たない高齢者や学童等の移動制約者にとって無くてはならない存在であるとともに豊かな国民生活の実現に無くてはならない存在である。

今回のサロンセミナーでは、和歌山電鉄をはじめ各地域において、数々の地域公共交通事業の再生実現に係わってこられた両備グループの小嶋代表をお迎えし、今後における地域公共交通事業のあり方や展望などについて講演頂いた。



両備ホールディングス(株) 小嶋会長

## ○ 国土交通白書説明会

日 時 : 平成27年10月8日(木) 13:30~15:00

場 所 : 大阪合同庁舎第1号館 第1別館

テーマ : 平成26年度国土交通白書の説明

講 師 : 大竹 将也 氏(国土交通省 総合政策局政策課 政策調査室長)

聴講者 : 130名

- ・国土交通省近畿運輸局、神戸運輸監理部、近畿地方整備局主催、(公財)関西交通経済研究センターの協賛により開催

## ○ 災害対策シンポジウム

日 時 : 平成28年1月15日(金) 13:00~16:30

場 所 : 大阪歴史博物館講堂

テーマ : 南海トラフ大地震への備えの現状と課題

講 師 : 多々納 裕一 氏(京都大学防災研究所社会防災研究部門 防災社会システム分野 教授)

テーマ : 三陸鉄道復旧復興の取り組み

講 師 : 望月 正彦 氏(三陸鉄道株 代表取締役社長)

聴講者 : 190名

- ・(公財)関西交通経済研究センターの主催、国土交通省近畿運輸局、神戸運輸監理部、大阪航空局、近畿地方整備局、第五管区海上保安本部の後援により開催

### ・開催主旨

東日本大震災以降、地震、津波など自然災害への防災・減災意識は高まりつつある。

関西地方では、東南海・南海地震への警戒が高まっており、連動して地震が発生した場合、地震被害、津波被害が非常に甚大になると予測されている。そこで、阪神淡路大震災、東日本大震災を経験した運輸・交通関係者を中心に講演者をお招きし、災害に対する過去の経験やこれからの対応などをテーマに、今後想定される未曾有の大災害からの被災を最小限に抑える防災・減災対策を中心に、現状の危機対策と今後の課題など、広く認識を共有することを目的にシンポジウムを開催した。



京都大学防災研究所 多々納教授



三陸鉄道株 望月社長

## ○ 物流講演会

日 時 : 平成28年2月9日(火) 13:10~16:00

場 所 : 大阪国際交流センター(大会議室・さくら)

テーマ : ハラルと物流 ~その現状と課題及びその将来について~

講 師 : 森 隆行氏(流通科学大学 商学部 教授)

テーマ : 訪日客を対象としたムスリム対応

講 師 : 三宅 基生氏(株シーズ 代表取締役社長)

テーマ : 関西国際空港におけるムスリム対応について

講 師 : 小関 貴裕氏(新関西国際空港株 航空営業部長)

聴講者 : 215名

- ・国土交通省近畿運輸局、神戸運輸監理部、(公社)日本ロジスティクスシステム協会、近畿倉庫協会連合会、兵庫県倉庫協会、(公財)関西交通経済研究センターの共催により開催

## ○ かんこうけんコロキウム

### 【第23回】

日 時 : 平成27年6月30日(火) 18:00~20:00

場 所 : 近畿陸運協会会議室

テーマ : 瀬戸の島々と神戸

講 師 : 加藤 琢二氏(加藤汽船株 代表取締役社長)

参加者 : 20名



- ・(公財)関西交通経済研究センターの主催、(一財)近畿陸運協会の後援により開催

### 【第24回】

日 時 : 平成27年12月1日(火) 18:00~20:00

場 所 : 近畿陸運協会会議室

テーマ : クリエイティブ・ツーリズムによる地域活性化

講 師 : 内山 仁氏(国連世界観光機関(UNWTO)アジア太平洋センター 副代表)

参加者 : 21名

- ・(公財)関西交通経済研究センターの主催、(一財)近畿陸運協会の後援により開催

## 【第25回】《懸賞論文表彰式・入選論文プレゼンテーション》

日 時：平成28年3月14日（月） 18:00～19:30

場 所：ホテルグランヴィア大阪

テーマ：世界の第二層都市の比較分析に基づく大阪の交通戦略の提案

－国際交流インフラと都市間交通インフラの連携に主眼を置いて－

発表者：矢倉 俊雄 氏（大阪大学大学院）

テーマ：踏切事故低減のための分析と提言 －高槻市富田村踏切を事例に－

発表者：江木 謙太 氏、大江 健幸 氏、藤本 周平 氏（関西大学）

参加者：35名



入選論文プレゼンテーション

・（公財）関西交通経済研究センターの主催、（一財）近畿陸運協会の後援により開催

### 3. 懸賞論文( 提案・提言 )の募集事業

次世代を担う方々の叡智を通じて当財団の調査研究における新たな切り口を発掘し、近畿圏における運輸交通・観光事業の一層の発展と地域社会の活性化に寄与すべく、平成20年度から懸賞論文事業を実施している。

平成27年度は6大学から過去最多となる13件の応募があり、審査の結果、最優秀賞に該当はなかったものの、優秀賞2件、佳作1件を選定し表彰した。

- 優 秀 賞 世界の第二層都市の比較分析に基づく大阪の交通戦略の提案  
－国際交流インフラと都市間交通インフラの連携に主眼を置いて－  
大阪大学大学院 矢倉俊雄 氏
- 優 秀 賞 踏切事故低減のための分析と提言 －高槻市富田村踏切を事例に－  
関西大学 江木謙太 氏、大江健幸 氏、藤本周平 氏
- 佳 作 最寄り駅から宝塚大劇場までの経路における車いす利用者を想定した場合のアクセシビリティ(バリアフリー)の調査研究  
宝塚医療大学 川邊勇典 氏、澤田真穂 氏、瀧岡直史 氏、向井 翔 氏



表彰状授与



大阪大学大学院受賞者



関西大学受賞者



宝塚医療大学受賞者

#### 4. 文献その他出版物の刊行

##### ○「関西交通経済ポケットブック」の刊行

「関西交通経済ポケットブック 2015年版」を刊行し、賛助会員、関係機関及び研究機関に配布したほか、一般に広く頒布した。



##### ○機関誌「関交研」の発行

2015年春季号(131号)及び秋季号(132号)を発行し、賛助会員等に配付した。

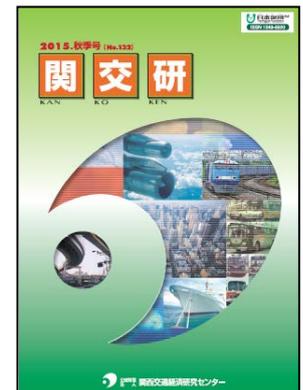
##### 【主な掲載内容】

(131号)

- ・平成26年度 近畿運輸局バリアフリー化推進功労者表彰
- ・第20回かんこうけんコロキウム 「タクシー政策の現状等について」
- ・第21回かんこうけんコロキウム 「海外コンテナ港湾の動向と阪神港の取組」
- ・第22回かんこうけんコロキウム 「かんこうけん懸賞論文の発表」  
入選論文1 「車いす使用者における歴史的建築物のバリアフリーの状況とその方向性」  
入選論文2 「駆け込み乗車をいかに減少させるか」
- ・平成26年度かんこうけん懸賞論文 表彰式
- ・平成25年度懸賞論文審査報告

(132号)

- ・所感 近畿運輸局長
- ・第23回かんこうけんコロキウム 「瀬戸の島々と神戸」
- ・第1回バリアフリー推進ワークショップ IN 関西」
- ・平成27年度 交通関係環境保全優良事業者等局長表彰
- ・平成26年度 懸賞論文審査報告
- ・タクシーにおける規制緩和の結果とその理由の分析



平成 27 年度調査研究事業一覧表

【事業名】	【受託先】
1. 「海学び舎」あらかると啓発事業	(公財)日本財団
2. 手話教室の開催	(公財)交通エコロジー・ モビリティ財団
3. 交通事業者向けバリアフリー教育訓練(BEST)実施に向けた研究(関西地区研修実施業務)	(公財)交通エコロジー・ モビリティ財団
4. バリアフリー推進ワークショップの開催	(公財)交通エコロジー・ モビリティ財団
5. TSD運輸安全マネジメント支援センター事業の推進	(一財)近畿陸運協会
6. 環境保全優良事業者等表彰式 記念講演会事業	(一財)近畿陸運協会
7. 第9回自動車事故防止セミナー	(一財)近畿陸運協会
8. 路線バスの可能性を考えるシンポジウム	(一財)近畿陸運協会 近畿バス団体協議会
9. 近畿スマートエコ・ロジ協議会業務	(一社)近畿トラック協会
京都物流グリーン化プロジェクト	【協賛】大阪ガス㈱ (一社)京都府トラック協会
10. 事業者参加型エコプロジェクト推進事業	(一社)兵庫県トラック協会
11. 事業者参加型エコプロジェクト推進事業にかかる広報誌の作成	(一社)兵庫県トラック協会
12. 自動車関連ビッグデータ利活用にかかるプラットフォームとしての検査標章のRFID化に関する検証委員会	㈱キリック